

第3次金沢交通戦略（素案）の概要

1. 計画策定の目的

人口減少、超高齢社会、運転手不足といった課題に加え、コロナ禍による生活スタイルの変化により、私たちの「移動」のあり方は変化しつつある一方、通勤・通学・通院・買い物などの日常的な移動や、旅行・出張も引き続き存在しています。

また、公共交通は、こうした移動を支える単なる手段としての役割だけでなく、外出機会の創出、運動不足解消による健康増進、環境負荷の低減、交通渋滞の緩和など、個人にとっても社会にとっても好ましい効果（ウェルビーイング）をもたらす存在としての役割もあります。

こうした認識のもと、市民や来街者の移動を支える公共交通などの目指すべき姿を「第3次金沢交通戦略」において定めようとするものです。

2. 計画の区域と期間

- 対象区域 金沢市全域
- 計画期間 令和5年度（2023年度）～令和9年度（2027年度）

2007 (H19)	2016 (H28)	2023 (R5)	2027 (R9)
新金沢交通戦略	第2次 金沢交通戦略	第3次 金沢交通戦略	

▼本市の現況・課題

【本市の交通の特徴】

- まちなかは細街路が多く、道路環境は他都市に比べ制約がある
- 限られた道路空間を有効活用するためには自動車と徒歩・自転車・公共交通の共存が必要

【これまでの交通まちづくりの課題】

- 第2次金沢交通戦略の評価と課題への対応
- 市民の移動実態とニーズの反映
- 国・県が目指す方向性や本市の交通をめぐる状況変化への対応

【これからの交通まちづくりに求められる視点】

- まちづくりを継承する
- 豊かな暮らしを支える交通環境をつくる
- 新たな公共交通の利用スタイルを提案
- 時代の要請に応える
- 公共交通の持続可能性を高める

■第3次金沢交通戦略の施策体系

基本的な考え方

歩行者・自転車・公共交通優先のまちづくり
交通から暮らしの質やまちの魅力を高めるまちづくり

拡充

新規

〔基本方針〕

1. 持続可能な交通ネットワークの形成
～地域の実情に応じた公共交通の充実～

2. 交通機能の連携強化
～便利で円滑な交通の実現～

3. 交通利用環境の向上
～快適で安全な利用環境づくり～

4. 人が中心となるまちなかの形成
～歴史と文化が薫る歩きたくなる空間づくり～

5. 交通行動の転換
～公共交通の利用促進と普及啓発～

〔施策〕

(1)公共交通重要路線の利便性向上
(2)鉄道線の利用促進・利便性向上
(3)新しい交通システム(第1段階)の整備
(4)郊外の移動手段の確保
(5)公共シェアサイクル「まちなか」の充実

(6)観光やスポーツ等のイベントに対応した交通の充実
(7)公共交通の担い手の確保
(8)石川中央都市圏等の公共交通ネットワークの充実

(1)金沢 MaaS の推進
(2)わかりやすい交通案内の充実

(3)官民連携による交通結節点の整備・充実
(4)ユニバーサルデザインの推進

(1)走行環境の充実
(2)渋滞緩和策の実施
(3)高齢者や障害のある方への移動支援

(4)タクシーの利用環境向上
(5)荷捌きの円滑化

(1)歩けるまちづくりの推進
(2)自転車利用環境の向上
(3)金沢ふらっとバスの利便性向上

(4)自動車の流入抑制
(5)駐車場の適正な配置

(1)モビリティマネジメントの推進

(2)公共交通の利用促進と情報発信・周知の充実

〔重点的な取組〕 地域に応じた移動手段を充実し、ハード・ソフト両面から連携を強化する

新しい交通システム
(第1段階)の整備
※バスのサービス水準向上

郊外の移動手段の
確保

公共シェアサイクル
「まちなか」の充実

金沢 MaaS の
推進

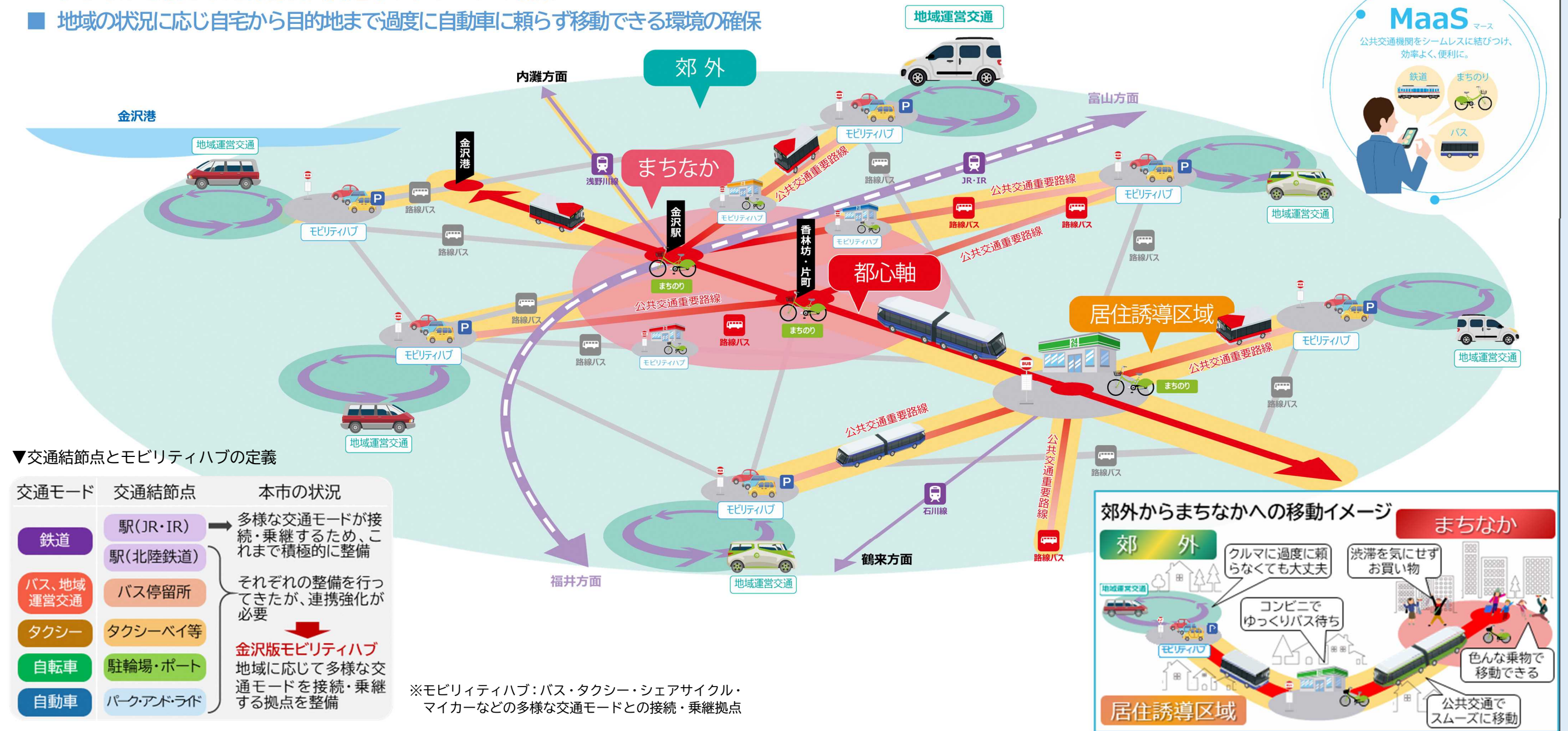
モビリティハブの
整備

▼SDGsとの関連



■公共交通ネットワークの考え方

- まちなかを核とした幹線公共交通ネットワークの構築
- 地域の状況に応じ自宅から目的地まで過度に自動車に頼らず移動できる環境の確保



まちなか

- 自動車の流入を抑制し、徒歩・自転車・バス等の多様な交通モードが便利に利用できる人中心の空間を形成
- 都心軸を中心とした「新しい交通システム(第1段階)」の整備により、まちなかと郊外におけるスムーズな移動を実現し、魅力をさらに高める

居住誘導区域

- まちなかと郊外を結ぶ公共交通重要路線について、定時性や速達性などの利便性を高め、公共交通の便利な区域への居住の誘導を図る
- 鉄道・バス等と他の交通モードを接続・乗継できるモビリティハブの整備を進め、多様な交通モードを便利に利用できる移動環境を整え、自動車からの転換を目指す

郊外

- 自動車と公共交通を組み合わせながら、地域の特性に応じたフィーダー交通の導入を進め、移動手段の確保とともに、過度に自動車に依存せず外出しやすい環境づくりを目指す

▼各エリアにおける交通モードの利用イメージ

